

The background of the page is a vibrant illustration of spring. It features clusters of yellow and orange flowers, likely cherry blossoms, with green leaves. Two bees are depicted in flight, one in the upper right and one in the lower left. The overall scene is bright and cheerful, representing the month of March.

# 三月の俳句

( 2 0 2 1 / 0 3 )

## 目次

たべもの俳句	モロク俳句	歳時記俳句
14	8	1
）	）	）

< 弥生 >

春寒，春色，春暖，浅春，早春，季春，軽暖，麗日，弥生，彼岸，春雷，土筆，桃花，桃の節句，上巳の節句

(宇佐美保幸)メール・zeirisi777usami@aol.com

毎日の俳句は次のブログに  
巢鴨とげぬき徒然俳句  
<https://blog-haiku.777usami.com>

強情に見えて淋しき牡丹の芽  
冷静にそして静かに牡丹の芽

水温む鯨も好きだ沖縄を  
平凡にとりとめもなく水温む  
少女たち人魚になつて水温む  
水温むとげ抜き地蔵ピツカピカ

願い事増えて三密つるしびな  
その距離を誰が決めたか夫婦雛  
あんパンに知らぬ顔して雛人形  
細切りの海苔を散らせてひな祭り

ものの芽を数えていれば眠くなり  
ものの芽をただぼんやりと見てすごす  
草の芽に未来を託す日々となり  
瀬戸の海波穏やかに木の芽吹く



柳の芽ころは変わるだれもまた  
芽柳やショパンの音符芽が並ぶ  
越辺川数を数えて筆の花  
つくづくし花はなくとも主張する

胃が痛む胃の腑に吹くか春一番  
春一番検索ワードおすすめは  
気まぐれな男女のごとく春二番

三極や山に雨降り首垂れて  
かれこれと偉人が並ぶ座禅草  
いつまでも既読にならずクロツカス  
告白がアンバランスでクロツカス

トトロとかポニョになろうよ春が来て  
春が来て絵の具新調写生会  
春が来てマスクが交差東口  
春が来て白髪頭を三分刈り



春が来てうぶ毛措置するクリニツク  
パソコンのフォントを選び春が来る  
うららかなや染井霊園春が来

スニーカー春の墨田の橋渡る  
春の雲そろそろ刈るか羊の毛  
グロテスク海の生き物春動く  
お水取前例踏襲それが良い

「こうあるべき」それはさておき春の雨  
日本には青い空あり春の街  
メールなどすべて抹消春が言う

お坊さん朝のお勤め牡丹雪  
ピザを待つ街はしだいに春の雪  
縄文土器考え深き牡丹雪

たんぽぽは踏まれて黄色また黄色



たんぽぽをただどって地球一周し  
見つけたるただひと株の鼓草

海風に春蘭揺れる瀬戸の山  
春蘭の花の塩漬けお茶にして  
春蘭をツマと飾りし吟醸酒

平凡になずなの花と友達に  
雑草という花はなく花なずな

見捨てられやがてあたりに花はこべ  
いつのまに予期せぬところ花はこべ  
捨てる神あらば捨て置け花はこべ

目を奪わう沸き立つように花ミモザ  
春シヨール似合うロボット受付に

沈丁花見ると言うより匂い嗅ぐ



沈丁の続く生け垣去りがたく  
遺伝子の親子関係沈丁花  
我が庭に沈丁咲いて夜の匂い  
沈丁やようやく咲いて香を散らす

接木して私の背骨曲がりけり  
浮気者あちこち指さし土佐水木

わが団地桜山台桜咲く  
半導体世の中変えて桜咲く  
後の世がそこまで来れど桜咲

校歌などこれが最後と卒業す  
卒業写真ひとりひとり忘れゆく  
ゴム草履履いて卒業終戦子  
ゴム草履卒業写真一人いて

ぼんやりとぼんやり眺め月朧



眠気にもようやく勝ちて山覚める  
春暁や鯨はどこでいつ眠る  
春暁や心のゴミも断捨離し

連翹の群がり乱れ乱舞して  
連翹を眺めて眠くなりけり  
連翹が咲いて吾が庭空気感  
黄も黄なり連翹咲いて枝揺れて  
連翹も桜も溢れ走りゆく  
連翹は四方八方無節操

うつむいて何を反省すみれ草  
三色すみれグローバルかな彩増えて  
バンジーが色を競いてにらめっこ

駅前の真白なるもの白木蓮

あたたかやサイクリングで句も作り



菜の花や海の青さを瀬戸の島

おこたりしメール返送弥生尽

「線路の石」 銚子電鉄菜の花や



モーロク俳句

モーロクし三月に失ひしもの  
早春と言うたびよだれモーロクす

モーロクし寒暖不明つくしんぼ  
モーロクし生きる途中土筆摘む  
モーロクしこの世の果てのつくしんぼ  
モーロクし寒暖つらくつくしんぼ

ミモザ咲く内向的にモーロクす  
ミモザ咲く昨日も今日もモーロクし

モーロクし一人を生きし残る雪  
モーロクし死ぬために生き雪間草

啓蟄もパジャマのまままでモーロクし



啓蟄やモーロクすれど蠢ける  
地虫出づモーロクしても生きたは  
啓蟄のかかどがさがさモーロクし  
啓蟄に我はモーロク医者がよい

モーロクし鉢植え友に木瓜の花  
あの人もついにモーロク桃の花

モーロクし当然至極春ごたつ  
モーロクしいつまでこの世春炬燵  
モーロクし膝をかばって春こたつ

モーロクしただ呆然と春の雪  
モーロクし瞬き多く春の雪  
限りある命モーロク春の雪  
思ふこと捨ててモーロク牡丹雪  
モーロクし未来は何か春の雪



菜の花や空気ぼんやりモーロクし  
菜の花や晴れのち曇りモーロクす  
モーロクし菜の花食べて苦き知る

モーロクし風評風化震災忌  
ものの芽やモーロクすれば面倒なり

たんぽぽのわたしは崩れてモーロクす  
モーロクしなほたんぽぽを摘みに来る

モーロクし色失せてなほ紅椿  
モーロクしやさしさ何処に落椿

燕来るモーロクすれば何想う  
少しづつモーロクすれど燕くる

大國はモーロク激し山椒の芽  
花こぶしモーロク進む膝頭



モーロクをすれば壊れるシャボン玉

うららけしモーロクすれば河馬欠伸  
空うららモーロクすれば膝うらら

彼岸入りモーロクすればなお寒し  
モーロクし夕日にしむ入り彼岸  
鳥の群来れどモーロク彼岸かな  
モーロクし彼岸に食べるお赤飯

モーロクし春分の日もまた迷う  
春分の日吐く息細くモーロクし

モーロクし巢ごもりすれど桜咲く  
モーロクし今日も白粥さくらどき

モーロクし桜トンネル千鳥足  
有り難く加齢モーロク初桜  
モーロクしいずれ死別やまた桜



モーロクし何かに夢中桜咲く

モーロクし言葉に出来ず春の雨  
春の雨眠りに落ちてモーロクし

モーロクしすぐに忘れて春の夢  
モーロクし壊し壊して春の夢

モーロクし前世怨み花粉症  
春眠やゆらりゆらりとモーロクし  
球春やモーロクすれど鼻屑あり  
モーロクしこの世に戻る朝寝なり

モーロクし憂き日々により春蘭や  
モーロクし生き死にとなり涅槃西風  
モーロクし不安春雷鳴りやまず  
春雷も曲がりくねりとモーロクす



モーロクし春の巢鴨の赤パンツ  
モーロクしオンオフ出来ず春の水  
春の水モーロク脳も反応す

はるのくもモーロクすればまるくなり  
モーロクしメイド喫茶で春うらら  
モーロクし人違いして春の風



たべもの俳句

コーヒーで草餅一個カフェもあり  
若返る力求めて蓬餅  
よもぎ餅買ひて地蔵を洗いけり  
蓬餅春に食べれば春らしい

春一番おやつ厳禁糖尿病  
蛤の身に心ありお吸い物  
菜の花の Pasta を夫婦お昼かな

もずく酢や沖繩思う朝餉かな  
マカロンの彩もいろいろ春ですよ  
きんつばの餡ほどよきて口に春  
きんつばをおもう浅草春うらら



だし卵幾重に巻いて春ですよ  
春となり海鮮パスタメインとし  
ホンビノス焼いてあぶって春の雪  
名物のたこ焼き食べて春の雷

菜の花や桜を飾りいなり寿司  
いなり寿司イタリア風に春の風  
たらの芽の天ぷらもあり天せいろ

花菜漬サンドイッチを夫婦して  
春野菜ポテサラサンドの彩りや  
春の日や卵サンドを喫茶店

シンプルに浅蜷酒蒸し酒を酌む  
平穏な日々こそよかれあさり汁  
春雷やきつねうどんに生たまご  
春雷や買い物やめて卵かけ



菜の花を加えパエリア緑映え  
デパ地下の「せとか」の値札春が来て  
深川めし我が家の味でぶつかけに

栄螺焼く怒った栄螺爆発す  
炒り玉子三色ご飯朧の夜

蛍烏賊今日の酢味噌に満足し  
蛍烏賊生姜と煮付け混ぜご飯

彼岸寒ふっくら厚く玉子焼き  
春雷や孤独楽しむ水餃子  
春愁のタルタルソース鱈フライ

ご当地のポテチでビール花見かな  
根菜をやわらかく煮てお花見に

うぐひすや誰が言うのか飲茶かな



春光や自家製ジャムに皮多く  
焼き餃子娘を褒めて春の宵

レタス噛む入れ歯時々眩しがる  
春が来て鯛の刺身の卵かけ

三月やレシピいらすの親子丼  
春時雨テラスで食すイタリアン



